

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2770901516
法人名	医療法人啓友会
事業所名	医療法人啓友会グループホームめぐみ2
訪問調査日	平成20年5月27日
評価確定日	平成20年6月26日
評価機関名	ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年5月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2770901516		
法人名	医療法人啓友会		
事業所名	グループホームめぐみ2		
所在地	大阪府高槻市安岡寺町1丁目36番8号 (電話) 072-687-8611		

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年5月27日	評価確定日	平成20年6月26日

【情報提供票より】20年5月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6人
職員数	8人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 5.6

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての		2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	74,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷金	有(円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 650 円
	夕食	550 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		1,600 円

(4) 利用者の概要(5月5日 現在)

利用者人数	6名	男性	0名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 89歳	最低	84歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	なかじま診療所、啓友クリニック、近森歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

有床診療所、デイケア、ショートステイ等を併設している複合施設「めぐみの家」の、一角にある1ユニット定員6人のグループホーム。長年、在宅医療に取り組んで来た理事長が、在宅での認知症ケアの限界を感じ、平成11年グループホーム「めぐみ」を開設。平成15年「めぐみ2」も開設した。個室の必要性、家族と共に作る部屋を大切にしたい、重度の障害でも、ADLが落ちて、落ち着いて暮らしていけることを重んじ取り組んでいる。複合施設を利用していた地元の人が多く、顔馴染みの関係の中で過ごしている。これからは、地域密着型サービスを更に取り入れ充実されるよう、運営者、職員が一体となった取り組みを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題は①入り口が外来者にわかりやすい表示②セミパブリックスペースの確保③ADLの変化時のケアプランの見直し④近隣の集会への参加、遠くへの散歩であった。③、④は改善されている。①は工夫が見られたが、更なる改善を望む。②は建物の構造状、改善は難しいと思うが、引き続き、落ち着いた生活が維持されるよう期待したい。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は運営者・全職員一体となって活動の検証評価をとりくむことで、評価実施の意義の理解と改善への具体的取り組みへの活用効果が深まる。今回は一部職員にまかされて取り組まれており、今後の積極的取り組みを期待する。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議ではホームの状況報告、行事計画、家族の要望・意見交換などが行われ事業所・本人・家族・地域連携の場となっている。開催頻度が平成19年から、間隔が空いており、運営基準に基づいた定期開催による、取り組みが求められる。(次回は5/31開催が計画予定されている。)
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情・相談受付窓口は重要事項説明書に記載されている。運営推進会議での家族の意見、要望や、随時の家族等からの意見、相談、提案等は、毎月のスタッフ会議等で話し合い、対応策を検討し結果を報告している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣地域の幼稚園のひなまつり会参加や、施設長の診療所を中心とする地域のNPOネットワーク「囲む会」からのボランティアとの交流・行事への参加などでの日常的な連携が行われている。その他の地域との連携は、運営推進会議への自治会長、民生委員等の出席による交流の機会を持っている程度である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症や身体の障害があっても、人生の最後をしめくくるのにふさわしい場所として生き生きした喜びを感じ、その人らしい生活を維持できるように援助していく。そのために、心身の機能低下を予防し、なじみの関係づくりをサポートし、地域社会への参加を働きかけていく。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホームの入り口掲示板や、業務日誌に貼り付けられ、いつも見るようにしている。又、月1回のスタッフ会議でも話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人達で構成されている「困む会」へリオフレンドから、毎月ボランティアに来てもらっている。又、おひな祭りには、地域の幼稚園から園児が訪問してくれるなど、行事に参加する形でも、地域の方達との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の前後に話し合っているが、具体的に改善することが難しい。運営推進会議でも話し合われているが、改善とまでいかない。これからは改善計画を立てて取り組みたい。又、評価を施設の全員で話し合い、評価の意義を分かり合いたい。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には家族の参加が多く、意見、相談などをよく聞き、改善に努めている。次への希望も聞き、次回への議題にしている。今後は2か月に1回開くように努める。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高槻市介護相談員を受け入れている。困ったことの相談、情報の提供などしており、市町村と共にサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に月1回近況報告書を郵送し、加えて、健康状態、小遣いの残高、行事の予定、施設からのお知らせ等も、担当者が書いている。行事の写真はそのつど送っている。施設で管理している金銭出納簿には、家族に確認のうえ押印してもらっている。面会時には近況を話している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で、家族からの意見、相談を受け、改善に努めている。苦情相談窓口は、グループホーム入り口に掲示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は小人数づつすることになっている。担当制をとり、利用者には説明を丁寧にしてダメージを防ぐ工夫はしている。家族の方にも説明を充分にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設全体の月1回の勉強会で、身体拘束、じょく瘡予防、感染予防の研修等受けている。受けた研修の報告は発表して共有している。法人外の研修も数少ないが参加している。新人には、担当職員が一人がついて(1~3カ月)OJTを心がけている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在では同業者間の交流がない。	○	今後は、いろいろなサービスの勉強会に参加し、他事業所との連携が取れるよう働きかけを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は、ディサービス、ショートステイを利用された方が、ほとんどで、本人も、家族も、職員も馴染みの関係で利用される。全く初めての方であれば、ショートステイなど体験していただき、馴染んだ上で利用されるよう勧める等、本人・家族とよく話し合われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活がゆっくり流れているので、生活の中で職員が知らなかったこと(お料理、味付け等)を教えられ、学ばせてもらっている。又行事などで一緒に楽しんだりもし、介護するだけでなく、気付かされることが多々ある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の介護計画書には、生活歴を記録し、現在に至るまでの状況が把握されている。ADLが落ちて会話が難しい状態も、ゆっくりサポートしている。職員の落ち着いた対処で一人ひとりを大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各利用者の担当職員を決め、面会時の家族からもよく聞き、個別のアセスメントを行っている。月1回の会議で検討し、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	要介護認定更新時、状態の変化時は、柔軟に計画の見直しを行い、家族に伝え、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助と送迎、買い物などの外出への支援、訪問理美容師の活用、併設ディケア訪問による知人との交流などを、行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の診療所医師の定期往診がある。個別のかかりつけ医への送迎付き添いは、家族が同行できない場合に支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム入所時に重度化した場合や看取りの対応を説明し、話し合いの記録を取っている。対応時には、本人、家族、医師、職員でカンファレンスを持ち、検討し、看取りを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護、秘密保持は会議で周知徹底を図っている。排泄、入浴、入室時などのプライバシーに気をつけている。生活する上での言葉かけも、本人を傷つけないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間をはじめ、日常生活はその人のペースに合わせている。買い物や散歩なども行きたい時に、出かけられるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食、夕食は施設全体が委託業者の食事を提供しているが、朝食は材料だけが届くので、利用者に調理、配膳、後片付けを手伝ってもらう。月1回「料理万歳」の日があり、献立、食材の買い物、調理を皆で行い、楽しい時間を過ごす。誕生会はおやつにケーキを出して皆で祝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人、家族の了解を得て曜日を指定して行っている。(月・水・金の午前中、週3回が入浴日)	○	職員の勤務状態の都合で入浴日・時間を決めていますが、本人の状態や、希望に添えるように、努力されることを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝食用意、食器洗い、後片付け、洗濯物たたみ、おしぼり巻き等、出来る方にはしてもらい。折り紙、塗り絵、パッチワークなど、職員が準備し皆で楽しんでいる。個室、廊下にも飾っている。施設内の啓友会の展覧会に出展して、励みとしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣のスーパーへの買い物、散歩などの外出は、希望に沿って支援している。お花見、運動会、日帰りのバス旅行などを行事予定に沿って実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は鍵をかけない。併設の施設への通路の出入りは自由である。外階段で屋上へ行くところのみ、安全上、鍵をかけることがある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年は6月に消防署の協力で訓練を行う予定になっている。防火責任者、防火避難マニュアル、緊急連絡体制は整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のもと、食事管理は行われ各個人ごとに食べやすい状態にしている。食事摂取量、水分摂取量、健康状態など、「熱計表」に記入され、検討されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの中央にある吹き抜けから、自然光が差し込むように設計され、明るく爽やかである。食堂兼リビング、廊下が手狭で、セミパブリックスペースは取れない。壁には皆で作った塗り絵、季節の飾り物、イラストなどを飾り、家族的な生活空間をかもし出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの家具、家族の写真、好みの飾り物など、それぞれに持ち込まれ、自分ひとりになれる空間、自分の時間が確保でき、自分の居場所があると安心できるように工夫されている。		